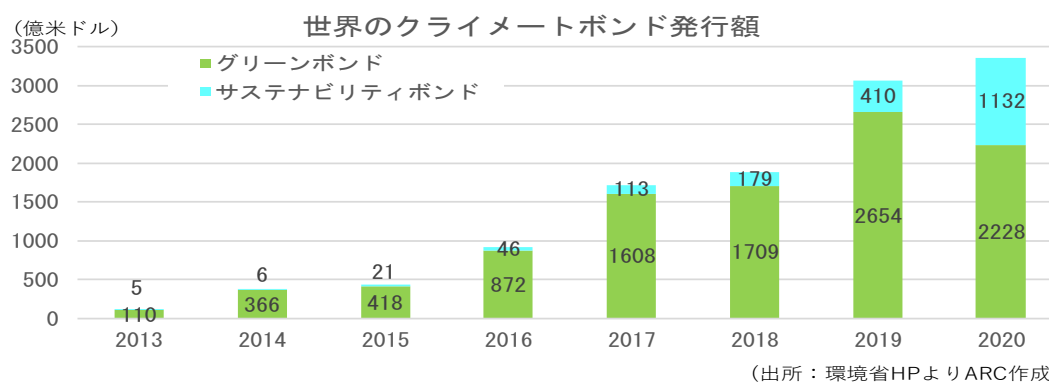


## クライメートボンド市場拡大加速か

### ◆2020年末、世界のグリーンボンド市場規模は1兆米ドル越え

気候変動対策への資金供給を促すクライメートボンドイニシアチブによると、2007年からの世界のグリーンボンド累積発行額は20年末で1兆米ドルを超えた。20年前半は新型コロナのパンデミックで発行額が減少したが、6月にEUがコロナ後の経済復興に向けグリーンリカバリーを打ち出したのを契機に、後半は増加に転じた。その後も政策の後押しの発表は続く。9月半ばに、欧州委員会のフォン・デア・ライエン委員長が、復興基金のうち約2,700億米ドルを数年かけてグリーンボンドで調達すると発言した。9月末には、中国の習近平国家主席が「2060年までにCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロをめざす」ことを表明、米国もバイデン新政権がパリ協定復帰の方針である。米国、中国は、グリーンボンド発行額が世界1位と2位の国であり、市場の期待は高まっている。



(注)クライメートボンドとはESG債(次頁表2参照)のうち、気候変動対策プロジェクトを対象にした債券。

### ◆クライメート・トランジション・ファイナンスの信頼性向上への動き

19年以降、新しいクライメートファイナンスとして、トランジションボンドへの注目が増している。エネルギー、化学、鉄鋼、輸送など、CO<sub>2</sub>排出量が多く、いきなり脱炭素化するのは困難なセクターが、まずは低炭素化過程に移行するための資金供給が目的である。しかし、発行基準や脱炭素化に至るシナリオが曖昧であるなど、信頼性の点で懸念の声が投資家から上がっていた。

こうした背景のもと、ESG債の国際的ガイドラインの策定で知られているICMA

(国際資本市場協会)は、20年12月に、トランジションボンドに信頼性を持たせるための4つの重要な推奨開示要素を示した「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」を発表した。

表1) トランジション・ファイナンスの4つの重要な推奨開示要素

|  |   |
|--|---|
| (1) 企業のトランジション戦略とガバナンス                 | パリ協定の目標と整合性のある中・長期目標に寄与するためにどのような施策によってビジネスモデルを変革し、また実践を監督しガバナンスするかを伝える。                              |
| (2) ビジネスモデルにおける環境面の重要課題であること           | 計画した移行経路が、企業の将来のビジネスモデルにおいて環境面での重要な課題に関連していることを示す。  |
| (3) 科学的根拠のあるクライメート・トランジション戦略（目標と経路を含む） | 計画したトランジション戦略は、パリ協定と整合性のある科学的根拠のある移行経路を参照していることを示す。長期間一貫性のある測定方法で定量的に測定可能なパフォーマンス改善値の設定、中期目標の設定などを行う。 |
| (4) 実施の透明性                             | 資金使途と成果を示せるように、トランジション戦略に関わる設備投資、業務費、運営費を含む基本計画について可能な範囲で透明性を確保して開示する。また気候関連の成果と影響について、定性的・定量的に報告する。  |

(出所：ICMA「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」よりARC作成)

今回、ICMAはトランジションボンドの対象プロジェクトについて、定義やタクソノミーで定型化せず、既にガイドラインがある「グリーンボンド」「サステナビリティボンド」「ソーシャルボンド」「サステナビリティ・リンク・ボンド」を利用する場合の追加的なガイダンスを策定した。脱炭素化への移行経路は業種や地域、また個別の企業の置かれた状況によっても異なるという現状を踏まえ、効率的に資金調達できることを重視したためである。ハンドブックにある4つの重要要素の開示でトランジションプロジェクトに信頼性を持たせることにより、既存のESG債のいずれの形式でも、トランジション目的の資金調達が行える。

日本では経済産業省、環境省、金融庁が合同でトランジション・ファイナンス環境整備検討会を設け、ICMAの発表内容も踏まえ、3月に「トランジション・ファイナンス基本方針(日本版)」を発表する予定である。 【石井由紀】

表2) ESG債の種類と特徴

| 種類               | 使途の特定 | 特徴  | 事例  |
|------------------|-------|---|---|
| グリーンボンド          | あり    | 地球環境改善効果をもたらすグリーンプロジェクトを使途とする債券                         | 旭化成が水力発電所設備更新と能力向上への資金を調達。再生可能エネルギーの長期的活用に貢献。           |
| サステナビリティボンド      |       | 地球環境と社会の持続性向上の双方に貢献するプロジェクトを使途とする債券                     | スターバックスがコーヒー栽培・流通プロジェクトへの資金を調達。自然資源の持続可能な利用と農家の所得向上に貢献。 |
| ソーシャルボンド         |       | 社会的課題解決に資するプロジェクトを使途とする債券                               | 日本学生支援機構が奨学金支援の資金を調達。経済的に修学が困難な学生に学資を貸与し、教育の機会均等を実現。    |
| サステナビリティ・リンク・ボンド | なし    | サステナビリティに関する重要KPIで目標を事前に設定し、達成状況に応じて利率が下がるなど優遇される条件つき債券 | 製薬大手ノバルティスが、途上国の2025年までの医薬品アクセス数をKPIとして設定した債券。          |

(出所：各種資料よりARC作成)